

家庭数

保護者様

令和3年11月11日

京都市立宇多野小学校  
校長 川合 まどか

## 令和3年度 前期学校評価アンケート結果のご報告

前期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。今回もアンケート実施と同時に、児童と教職員にもアンケートを実施しました。それらの結果を報告させていただきます。

また今回から Microsoft Forms を使い、お手持ちのスマートフォンから QR コードを読み取ってご回答いただきました。後期はそれに加え、PTA メール配信も活用しようと考えています。

今後も学校教育へのご協力をよろしくお願ひいたします。

### 1. 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標 学ぼうとする意欲や学びを友だちと共有する力を身につけさせ、学力向上につなげる。

#### 学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 授業は分かりやすいですか。児童 97. 1% 保護者 85. 6% 教職員 78. 2%
- ② 授業中、進んで発表していますか。児童 66. 2% 保護者 61. 5% 教職員 82. 6%
- ③ 学習ノートを見やすく書いていますか。児童 81. 3% 保護者 68. 6% 教職員 78. 3%
- ④ 学習ノートに、「めあて」に沿った「振り返り」を書いていますか。  
児童 87. 8% 保護者 73. 8% 教職員 73. 9%
- ⑤ 自分から進んで家庭学習をしていますか。児童 72. 9% 保護者 60. 0% 教職員 52. 2%
- ⑥ 読書の習慣が身についていますか。児童 77. 9% 保護者 51. 0% 教職員 60. 8%

#### 分析（成果と課題）

保護者の指数が、前回に比べ③については 7. 0%，④については 6. 8% 下がりました。いずれも学習ノートに関する項目です。昨年度に引き続き今年度も、6 年間を見通した「ノートの書き方」に沿ったノート作りを徹底して指導しています。また、年に一回ノート検定を実施したり、子ども自らがチェックポイントを見て到達度を確認したりする等、授業における学びの足跡が残るノート作りを行っています。それにも関わらず数値が下がっているのは、G I G A 端末の導入によるノートとの併用の課題が要因ではないかと考えられます。⑥については、児童と保護者で 26. 9% の差があります。学校では、朝読書の時間を設けていたり、図書館を利用したりする等、読書をする機会が多いです。しかし、約半分の家庭でそれが習慣化されていないと考えられます。

#### 分析を踏まえた取組の改善

6 年間を見通した「ノートの書き方」に沿ったノート作りを、引き続き徹底して指導していきます。また、子ども自らがチェックポイントを見て到達度を確認する機会をさらに増やし、見やすく学びの足跡が残っているノート作りができているかの振り返りを大切にします。また、到達度の高い児童のノートを掲示し、それを参考にしてよりよいノート作りに励もうとする児童を育てていきます。家庭での読書を促すためには、図書館だよりで家庭での読書の意義や学校独自のおすすめ本を紹介したり、読書ノートに記録することを徹底させ、読書を宿題に出したりするなどの方策をとっていきます。

(裏面もあります)

## 2. 「豊かな心」の育成に向けて

**重点目標** 規範意識の育成や道徳教育の充実を図り、支え合い高め合う集団をつくる。

### 学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 自分からあいさつができますか。児童 91. 2% 保護者 73. 2% 教職員 56. 5%
- ② 相手を思いやり、親切にすることができますか。児童 95. 0% 保護者 91. 7% 教職員 95. 7%
- ③ 周りの人から大切にされていますか。児童 95. 4% 保護者 98. 9% 教職員 100. 0%
- ④ ものを大切にしていますか。児童 94. 6% 保護者 72. 1% 教職員 56. 5%
- ⑤ 学校のきまりや社会のルールを守っていますか。児童 96. 9% 保護者 95. 5% 教職員 86. 9%

### 分析（成果と課題）

「自分からあいさつ」と「ものを大切に」することについては、児童の指數に比べ、保護者は 20%ほど低く、教職員においては 35%ほど低いです。自分からあいさつすることについては、登下校時の様子だけ見ても、このような高い値を示す実態ではありません。ものを大切にすることについても、落し物が多く、誰のものか呼びかけても所有者が見つからないことが多々あるのが現状です。

### 分析を踏まえた取組の改善

「自ら進んであいさつのできる児童」を育てていくには、今後も学校・家庭・地域が一体となることが大切であり、人権教育の第一歩につながることを意識して取り組んでいきたいです。「ものを大切にする児童」を育てていくためには、ものの記名を呼びかけたり、整理整頓ができる環境を整えたりしていきます。児童会活動においても、主体的・自発的な児童を育て、あいさつの力や規範意識を高めていきたいです。あいさつは、相手を見て聞こえる声で言うことや、知らない人にも言うことで力がつくと具体的に児童に対しています。

## 3. 「健やかな体」の育成に向けて

**重点目標** 運動やスポーツの実践と体力の向上、健康的な生活を送る子を育成する。

### 学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 睡眠時間は8時間以上とれていますか。児童 90. 4% 保護者 94. 8% 教職員 82. 6%
- ② 毎日朝ごはんを食べていますか。児童 99. 2% 保護者 98. 1% 教職員 91. 3%
- ③ 外遊びやスポーツなどで、体を動かしていますか。児童 89. 1% 保護者 81. 2% 教職員 87. 0%
- ④ テレビを観たり、ゲームをしたりする時間を決めていますか。  
児童 78. 5% 保護者 60. 4% 教職員 47. 8%
- ⑤ 安全に登校できますか。児童 98. 2% 保護者 96. 2% 教職員 95. 6%
- ⑥ 安全に下校できますか。児童 97. 7% 保護者 91. 7% 教職員 69. 6%

### 分析（成果と課題）

④については、児童も保護者も前回よりも 5% 強上がっています。コロナ禍で、家庭で過ごす時間が長くなつたことに伴い、テレビを観たりゲームをしたりする時間が長くなつたため、時間のルールを決める家庭が増えたのではないかと考えられます。しかし、児童と保護者の指數に 20% 程の開きがあるため、きちんと共有できているのかについては不確かであります。⑥については、教職員の指數が前回よりも 20% 弱上がったものの、登校に比べ依然低いです。

### 分析を踏まえた取組の改善

④については、スマイルデーや G I G A 端末の持ち帰りに際して、情報モラルの学習を行ってきました。特に前者では、ゲーム依存について触れ、体や心の健康のために時間を決めるの大切さを教えました。前回より数値が上がったのは、指導した効果と考えられます。⑥については、これからも一人一人が安全に気を付けて気持ちを落ち着けて下校できるように、安全の日の教職員の登校指導を下校時に行うなど工夫していきます。継続して指導すると同時に、家庭での安全指導の協力を願いします。

